


令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団あとむ
公演団体名	有限会社 劇団あとむ

内容
<p>タイトル 《アニメイムで遊ぼう》</p> <ul style="list-style-type: none">○ 《アニメイム》とは、「棒とボールと輪っか」を使い、複数の人数で、空中に、瞬時に、動物や風景を描く手法。棒・ボール・輪をつかった造形を、手遊びから、表現へ繋げます。つくりかたの発想を児童、先生方に、提案・指導します。○ 音楽も同様に、動きから自然に生まれるリズムや、曲想を楽しむ、解放された音楽にふれる機会にします。アニメイムも音楽も「ひとりでは出来ない」ものに取り組みます。○ 共演する児童だけでなく、体育の時間や総合教育の時間にも相応しい内容です。○ 一回の人数は、全員が実地に触り、動くには理想は30人～50人程。○ 全校生徒多数の場合は、学校の舞台に一部生徒を選出参加の形で可能です。 <p>☆90 cmの棒 6本 + 45 cmの棒1本で ⇒  「馬」になります。3人～4人で持って繋ぎ、動かし歩かせたり、乗ってみたりします。</p>

タイムスケジュール（標準）
ワークショップ開始時間の1時間前に会場入りを希望します。 目安としては1校時45分として、2ステージにて実施。児童数は1ステージ最多約50人。 2ステージで計100人以内を目安にしています。

派遣者数
主指導者講師 1名・指導者 出演俳優 2名 （予定・A班 計3名 B班 計3名）

学校における事前指導
アニメイムの道具は「棒」「輪」「ボール」です。その棒を、新聞紙を丸め、つくります。子どもたち1人につき、1本(長)出来れば(長短)2本ずつ、用意して戴きます。新聞紙を拵げ、まるめて直径2.5～3cmの棒です。ワークショップのあとでも、各自のものとして遊べます。その、「棒」の作成を、ご指導いただきたく、お願い致します。写真を添え、図解しておとどけいたします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団あとむ
公演団体名	有限会社 劇団あとむ

演目	
『あとむの時間はアンデルセン～遊びバージョン～』	
原作	H. C. アンデルセン
脚本	秋山英昭・関矢幸雄
構成・演出	関矢幸雄
音楽	クニ河内
美術	有賀二郎
公演時間(70 分)	

派遣者数		
出演者: 10名	スタッフ: (出演者兼務)	合計 : 10名

タイムスケジュール (標準)	
午前1ステージ公演の場合 (例・案)	午後の1ステージ公演の場合(例・案)
搬入仕込 / 7:30	搬入仕込 / 9:00
リハーサル / 9:00	リハーサル / 11:00
開場 / 10:30	開場 / 13:20
開演 / 10:40～終演11:50	開演 / 13:30～終演14:40
撤収・退出 / 14:00	撤収・退出 / 16:00

実施校への協力依頼人員
協力人員の依頼はありません。舞台・客席の設置は無論、席割なども、こちらで作成して提案いたします。

演目解説

アンデルセンの、弱者に焦点をあわせた人生観や、価値観を、童話を通し、深く優しく子どもの心に届けます。ユニークで斬新な工夫を重ねた、表現様式です。

☆ 構成・あらすじ 9人の妖精がお話を運ぶ《音楽劇》

① 劇『パンをふんだ女の子』

靴を汚さないよう、ぬかるみにパンを置いて渡ろうとした女の子インゲル。

沼の底に沈み、地獄まで堕ちます。わがままで頑ななインゲルを救えるのは、誰なのか…？

② 子どもたち参加『アニメイムで遊ぼう』

まず、アニメイムとは…？の、ユニークなパフォーマンス、遊び、子どもたちが参加します。

③ 劇『父さんのすることはみんなよし』

要らない馬を、何かいいものと取り換えようと、父さんは市場に出かけます。馬から雌牛に、雌牛から羊にと、次々に取り換え、ついには腐ったリンゴになってしまった！

さあ、家で待つ母さんはどうするか。ほんとうの値打ちとは？

☆ みどころ・オリジナル・工夫点

<アニメイム> 棒とボールと輪で、複数の人数で、空中に、瞬時に、動物や風景を描きます。

複数で取り組む、オリジナルの想像遊び。

人が意気(息)を合わせ、ひとつのものを創り、動かし、命を吹き込みます。

<アカペラコーラス> 語り、歌、擬音、すべて生の声で演じます。3声～5声のハーモニーです。

音楽は多様で楽しいこと、人間の身体能力の可能性は無限であることを、伝え、感じてもらいます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【アニメイム】で、《もの》と、遊びます。

共演は上記演目解説②の、「遊び」の部分で、舞台に出て貰います。即興の呼吸を体験、

自由に柔らかな発想をうながし、感性を、呼び起こします。

先生方にも、あらたな子ども達の発見となります。

自分も舞台に参加し、劇団員とのふれあいを楽しんでもらい、楽しんでこそ、劇の物語の深いテーマが胸にしみます。

児童生徒とのふれあい

公演終了後にも、子どもたちと交流します。実際にものをさわってみたり、一緒に何か創ったり。

【想像する楽しさ⇒かたちにする面白さ】を知って貰う。

【ふたりで、又は、大勢で協力して創り合う楽しさと、思いやり】を感じとってもらおう。

【身近にあるもので遊べる・かんがえる・工夫する】ことを、面白い！と感じさせたい。

小さなきっかけやヒントから、子どもたちの創意工夫のひろがりは驚くばかり大きいです。

それが生き生きと元気で生きる力になります。その為に、一緒に遊ぶことが大切です。